

平成 26 年度 第 6 回常務理事会 議事録

開催日時：平成 27 年 3 月 20 日 18:30～

出席者：兼子、諏訪、浅野、藤井、柴、多和田、近藤、鈴木敦、臼井、森本

欠席者：無し

議長：兼子 徹

議事録：藤井

【連絡事項】

医療法施行規則において臨床研究中核病院の承認要件等を定める等の所要の整備を行うための、医療法施行規則の一部を改正する省令（案）に関する意見募集があり、日臨技から次の 2 件の意見があった。

- ・厚生労働省令に「臨床検査技師」人員要件は明示されていないが、「臨床検査技師」の名称を明記していただきたい。
- ・その他の従事者（臨床研究コーディネーター）の要件について
- ・臨床検査技師の臨床研究コーディネーターについては、実務経験 3 年以上の条件を外していただきたい。

平成 26 年度全国幹事連絡会の報告が兼子会長よりあった。

- ・少子高齢化により地域医療体制が変化し、臨床検査技師も変化をしなければならない。
- ・守りの姿勢ではだめである。逆に何でもできる時代になりつつあるとも言える。
- ・国会には政策提言を行い、国民には普及啓発を行い、臨床検査は臨床検査技師が行うのだと言う事を認めていただく。
- ・県や地域に入って行って、社会的使命を果たす。そのために岐臨技では、会長が医療整備課とコンタクトをとっていますとの報告があった。
- ・組織の活性化として、中・高校生向けの進路ガイダンス実施に取り組む。
- ・国際交流の推進では、IFBLS 学会で支部学会のブースを作る。
- ・出版事業では、JAMT 技術教本シリーズの発刊を 3 年間で 31 冊発刊する目標。
- ・臨床検査精度管理事業の継続では、プール血清を活用する。
- ・渉外関係では、業務認証に向けての取り組みを強化する。また、次期の法改正に関する検討では、2025 年に向けて患者のいる場所の変化に対応する。

以上の様な報告があった。

検体採取指定講習会の参加費会員 1 万円 非会員 3 万円の使い道についての質問に対し日臨技から、会場経費、運用経費でこのくらいかかるとの返答があった。日臨技全体として今年度は赤字のため、検体採取指定講習会で儲けている訳ではないとの説明があった。検体採取指定講習会の 1 万円の質問は、西濃地区、飛騨地区でも話題となった。今後 5 年間開催予定のため様子を見るとの意見があった。

【中部圏支部】

兼子会長より中部圏支部幹事会議の報告があった。

- ・日本医学検査学会が 2018 年中部圏支部担当。
- ・第 32 回 IFBLS 学会の渉外委員会の委員に浅野敦（岐阜県副会長）が推薦された。
- ・検体採取の全国研修会で、中部圏支部開催の実務委員として、8 月の 8、9 日に岐阜県担当で、兼子会長、近藤学術部長、佐藤先生（関中央）の 3 名が参加。
- ・支部研修会の赤字補てんについては、予算建ての段階から、綿密に計画を立て、赤字を出さないようお願いしたい。赤字が出た場合は、岐臨技が補てんをする。指導者向けの研修会は、赤字になりやすい。
- ・中部圏支部 支部学術奨励賞に大垣市民病院の加納綾乃技師の「当院における血小板数低値および凝集時の対処法」が選出された。

各県技師会提案事項

- ① 第 62 回日本臨床検査医学会学術集会 11 月 19～22 日に岐阜県（長良川国際会議場・岐阜都ホテル）で開催される。一般演題の応募および参加のお願い。
- ② 診療放射線技師は MRI 時の造影剤ルートの抜去ができるようになるが臨床検査技師はできないのではないかと。できるように要望したい。
- ③ 非会員への検体採取講習会の案内をどうするのか。口コミで連絡する。
- ④ 検体採取指定講習会の参加費 1 万円は高いのではないかと。

第 67 回日本医学検査学会開催地（2018 年）について（中部圏支部担当）招致を希望している県が 3 県（石川県、静岡県、愛知県）あります。学会運営規定が改定されたのち、中部圏支部として速やかに選考準備にあたる。日臨技で大都市のみ開催に決定した場合は、愛知県開催となる。愛知県開催となった場合、2017 年の中部圏支部学会を岐阜県でやってほしいと、愛知県より提案があった。岐阜県の中部圏支部学会担当は中濃地区でしたので、地区総会にて前倒しで行う事の承認をえた。

【岐臨技】

岐阜県健康福祉部医療整備課より岐阜県精度管理専門委員が満了となるため、委員候補者の推薦のお願いがあり、多和田精度管理部長が推薦された。

諏訪副会長より、平成 26 年度第 25 回高山市市民健康まつりの報告があった。

- ・実行委員会 3 回 来場者 2400 名 スタッフ 16 名
- ・血管年齢測定と結果説明、骨密度測定と結果説明。
- ・平成 26 年度第 25 回高山市市民健康まつりの決算書の報告があった。
- ・平成 26 年度秋季拡大研修会の決算書の報告があった。

常務理事会を 5 月 8 日（金）に理事会を 5 月 22 日（金）に変更するとの報告があった。

臨床一般検査研究会より「第 7 回日本臨床一般検査学会および第 13 回スキルアップ講習会後援のお願い」があった。

【学術部】

近藤学術部長より報告があった。

平成 27 年度春季拡大研修会に宮島喜文会長の講演を賜ることになった。

各部門長さんへ予算書作成のための情報提供の説明があった。

一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会 部門長・副部門長・部門員の現在の一覧表の説明があった。

現在岐臨技で活用しているクロネコメール便が 3 月 31 日の受付分をもって廃止となる。岐臨技、日臨技で取り扱う郵便物は信書であり、郵便局でしか扱えないため、普通郵便か定形郵便で送る事になる。送料は重さにより値段が変わるためコストが上がること、今まで 2~3 日で届いた物が 1 週間ほどかかることになり、早め早めに対応して行かないと遅れること、また、集配に来てもらうにも 1 週間前に予約をしないといけなくなり、不便になるとの報告があった。

【精度管理】

2 月、3 月に共用基準範囲事を案内をした。4 月 1 日の時点で変更した施設が 9 施設あるとの報告があった。岐阜県は医師会が共用基準範囲に積極的であり、これに乗っかり推進していきたいとの報告があった。平成 27 年度岐臨技のサーベをそろそろ準備する。

JAMTQC は登録済みとの報告があった。

見積書を JAMTQC から出せるように進めているとの報告があった。

【組織調査部】

白井組織調査部長より報告があった。

平成 27 年度「検査と健康展」開催について報告があった。

開催日：平成 27 年 11 月 29 日（日）10:00~15:00 会場：アクアウォーク大垣

対象：中学生・高校生・(小学生)・一般市民

事業内容を各部門において検討し協力してもらう。

- ① 臨床検査を知ってもらう
- ② 健康チェック(必須)
- ③ 講演(実施せず)
- ④ 健康相談(必須)
- ⑤ リーフレット配布(必須)

経費は日臨技から必須事項実施につき 500,000 円助成される

事業内容によっては厚労省、保健所へ届出が必要な場合がある。

検査無料体験

- ① 血管年齢
- ② 頸動脈エコー
- ③ 骨密度
- ④ ヘリコバクター・ピロリ検査

検査の仕事

- ① 顕微鏡を使ってミクロの世界を観察(血液・病理・正常細胞とがん細胞)
- ② 超音波を使って体の中を観察(超音波装置で見える世界)

その他の企画

チーム医療、血液センター、学校紹介、救急隊

以上を3月26日の部門長会議で説明し、協力要請する。また、同時にタイムスケジュールも提示するとの報告があった。

【広報宣伝部】

森本広報宣伝部長より報告があった。

ロッシュが開催しているロッシュセミナーを岐臨技と共催で宮島会長を講師として呼びたいとの意見があり承認された。

現在ホームページのリニューアルを準備中との報告があった。

【法人対応部】

鈴木法人対応部長より法人対応部は、法人立ち上げが終了し、今後どうするかを兼子会長と相談をしながら行って行くとの報告があった。


平成26年度の各部の事業報告書作成のお願いがあった。


【庶務部】

藤井庶務部長より報告があった。

現在会員名簿を印刷中のため、3月中には会員名簿が各施設に届く予定との報告があった。

議決権行使書の議案書作成のために、各部長さんに事業報告のお願いがあった。

議長 兼子徹 

議事録署名人 浅野敦 

議事録署名人 _____ 印